

月報 シオン山

2022年5月1日発行 (No380)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

わたしは心を尽くして主に感謝をささげ
驚くべき御業をすべて語り伝えよう。

(詩編 9編2節)

希 望

大里紀代子

4月20日は、私たち夫婦の59回目の結婚記念日だった。新型コロナウイルス感染症防止のためしばらく外食は控えていたが、今年は久しぶりに、レストランで、結婚記念日特別メニューの食事をした。ブラジルの義妹からの電話では、来年は結婚60年でダイヤモンド婚ですよと教えられ、そうなのかと改めてこれまでのこと振り返り、考えさせられた。

宮崎大学に勤めていた夫が、ギャロット先生との出会いにより、西南女学院に招聘されて、何度か家族会議を持ち、最後まで反対していた義母を説得し、西南女学院に赴任したのは、1967(昭和42)年のことだった。

現在西南女学院の立体駐車場があるところに、木造の棟割長屋の校宅があった。そこには、吹田、秋月、井上、福尾、峯崎という方々が住んでおられた。その真ん中に一家五人（克夫・紀代子、徳、真理、恵美）が住むことになった。子どもたちはすぐに秋月のお嬢さん二人と仲良しになり、校宅の周りの自然の中で草摘みや木登りなど、駆け回って遊んでいた。

その後生まれた長男の宣之を含めて、子ども3人はシオン山幼稚園のお世話になり、娘二人は西南女学院中高を経て、西南学院大学に進学した。長女は、仙台で東北福祉大学付属こども園で、次女は鳥栖キリスト教会の牧師の妻として、長男は障害者支援組織で働いている。子どもたちは大学入学と同時に親離れし、結婚に際しても、3人とも事後承諾で、結婚式の準備にはほとんどタッチしないまま進行した。夫婦二人の生活になって長いが、夫が40年勤めた西南女学院を73歳で退職して15年余り。宮崎教会からシオン山教会に転籍して60年余り、振り返ってみると何時の時も教会から離れることはなく、いつも神様に導かれていたと感謝している。

校宅に入居してすぐ、当時の短大生への家庭集会を開いた。狭い校宅に20～30名の学生が集まり、荒瀬昇牧師、今村幸文牧師、城前和徳牧師と引き継がれていった家庭集会を懐かしく思いだす。会の終わりに写真を写し、寄せ書きをして、自分が出席した足跡を残した。ギャロット先生や、キャンベル先生も参加された。

天城の年次総会に出席した時のこと、庭を散策していると、二人の女性がやってきて「お久しぶりです！」と笑顔で話され、はて、どなただったかな？と思いめぐらせていると、「家庭集会にはいつも参加させていただいていたのですよ、夏のそうめん、冬のおでん、美味しかったですね」その言葉に、ああ、あの時の女学院の学生だったのかと思ひ当たった。大勢の学生が家庭集会に集まり、楽しい交わりの時を持ち、卒業していった。その中の何人かは、キリスト者となり、天城山荘の総会に出席するようになったということに私は喜び、信仰の種は撒かれていたのだと感謝した。

現在は、シオン山教会教会学校中高科の教師として、奉仕の場をいただいているが、近年になり、中学1年生から出席している姿に、また保護者も共に出席していることに、喜びを持って迎え入れ、これが続いていきますように、将来につながりますようにと祈っている。若い初々しい生徒たちに接していると私の心もドキドキ気持ち若返った思いにもなる。このような機会を与えてくださった神様に感謝。